



謹んで本年頭のご挨拶と申し上げます

秋田なまはげ農業協同組合 代表理事組合長 京極 芳郎

あけましておめでとうございませす。昨年中は当ＪＡ事業に対しまして特段のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申しあげます。

昨年は、全国的に台風や豪雨、猛暑など、度重なる気象災害に見舞われた年でありました。管内では春に少雨傾向となり、生産者の方々は水不足によつて、繁忙期の田植え作業に苦労されたことと思ひます。また、近年は高い気温経過が続いており、特に昨年は、高温障害に悩まされた１年でもありました。一方で、「令和」という新しい時代を迎えて喜ばしい雰囲気にも包まれるなか、農業分野においても、県内産の枝豆の出荷量をはじめて日本一を達成するなど、新時代に相

応しく輝かしい話題が上つております。各品目においても販売額の伸びが見えており、これもひとえに、生産者や関係者の方々の努力の賜物でございます。

大館市で開催された第142回秋田県種苗交換会においては、芝野転作組合による大豆「リュウホウ」が2年連続で農林水産大臣賞に輝いたほか、当ＪＡ管内からの5点が1等賞を受賞するなど、管内農産物の品質の高さが確固たるものであることを表す結果となりました。また、管内の秋田市・男鹿市・潟上市と当ＪＡで、昨年「秋田中央地域地場産品活用促進協議会」(通称「農家のパーティ」ネットワーク)を設立いたしました。当ＪＡの

合併を契機として3市とＪＡが連携し、首都圏でのトップセールスや県内外のイベントでのプロモーション活動など、地場産品の販売促進や地域産業のさらなる活性化に取り組んでおります。

農業が、担い手不足をはじめとした多くの課題に直面しているなか、スマート農業の導入や大規模施設の整備などが管内にも広がりを見せており、生産者を支援するうえで、関係機関とのさらなる連携が重要になっております。今年も引き続き、高品質な管内農産物の消費拡大や知名度向上、産地の維持に向けて関係機関各位と協力し、管内農業の発展に尽力していく所存でございます。

昨年実施いたしました「ＪＡの自己改革に関する組合員調査」では、ＪＡの各事業へ期待感を示すご回答を、約7／8割の組合員の皆様からいただきました。また、ＪＡやＪＡの総合事業の必要性については、約9割の方々から「必要である」とご回答いただきました。政府が定めた「農協改革集中推進期間」が昨年5月で期限を迎えましたが、当ＪＡはこれからも自己改革を継続して持続可能な経営基盤の確立・強化を図り、地域の皆様に寄り添ったＪＡづくりを進めてまいります。

結びに、皆様の一層のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。